

## 「認定歯科衛生士が長く活躍できる環境とは」

大河原純也  
ありす歯科医院

治療歯科から予防歯科へシフトしている昨今、顕微鏡を上手く使いこなすことができる歯科衛生士へのニーズはますます高まるばかりである。しかし、顕微鏡を上手に使いこなすには一定期間を要するにも関わらず、結婚や出産を機に仕事を辞めてしまう歯科衛生士も少なくない。したがって、歯科医院において歯科衛生士が顕微鏡をトレーニングするための環境に加え、仕事に復帰した後も長く働ける環境が求められている。

現在、当院には育児短期間勤務中の歯科衛生士が2名在籍しているが、出産や育児を通して社会人経験が豊富になったことを生かすことで、顕微鏡を使いこなす歯科衛生士がさらに活躍できるチャンスが広がっている。今回、認定歯科衛生士・認定歯科医師双方の立場から顕微鏡のトレーニング法、そして仕事に復帰しやすい環境作りの取り組みについても話してみたい。

### 【略歴】

- 1994年 日本大学松戸歯学部卒業
- 1998年 日本大学大学院松戸歯学研究科卒業（補綴学専攻）
- 1999年 鈴木歯科医院勤務
- 2004年 ありす歯科医院開業

### 所属

- 日本顕微鏡歯科学会認定歯科医
- 日本臨床歯科医学会東京支部理事
- 日本大学大学院松戸歯学兼任講師
- AMED (Academy of Microscopic Enhanced Dentistry) 理事、認定医